

「LISTEN リッスン」映画上映について（ご案内）

長野医療衛生専門学校 音楽療法士学科では、公開授業期間中に下記の日程で

「LISTEN リッスン」の映画上映会を実施いたします。

ご興味のある方はぜひご鑑賞ください。鑑賞を希望される方は、事前に下記へご連絡ください。

記

日 時 : 令和6年 12月17日（火） 9:00～10:30を予定

場 所 : 長野医療衛生専門学校 言語聴覚士学科校舎5階
長野県上田市中央2-13-27 TEL 0268-23-3800

内 容 : 映画「LISTEN リッスン」上映（58分）

出演者全員がろう者で、音を一切使わずに製作されたアート・ドキュメンタリー。自身もろう者の新鋭・牧原依里と舞踏家・雫境（DAKEI）が共同監督を務め、身体表現に魅せられたふたりが“ろう者の音楽”をテーマに映画を探求していく。手話を始めとした全身の身体表現により視覚的に音楽空間を創造し、音楽を“映像化”させた実験的作品。

お申込み : 12月6日（金）までに下記へご連絡ください。

以上

（お問い合わせ先）

長野医療衛生専門学校 教頭 中村清子

〒386-0012 上田市中央2-13-27

TEL : 0268 (23) 3800

E-mail : jim3@nagano-iryousei.ac.jp

15人の聾者が奏でる、前人未到の映像詩。



世界には音楽が溢れている。
しかしあなたのまだ知らない音楽があるとしたら—
この映画は無音であり、言語は手話である。耳の聞こえない聾者(ろう者)たちが自ら「音楽」を奏でるアート・ドキュメンタリーだ。楽器や音声は介さない。彼らは、自身の手、指、顔の表情から全身に至るまで、その肉体を余すことなく駆使しながら視覚的に「音楽」空間を創り出していく。



出演者は国内外で活躍する舞踏家から、演技経験のない一般の聾者まで多彩な顔ぶれが集まる。彼らは各々に「音楽が視える」と語り、「魂から溢れ出る“気”のようなもの」から「音楽」を感じるという。複数の手話詩を交えながら「四季」を表現する初老の男性、木々のざわめきの中で風を歌う少女、波打つ浜辺で魂を叫ぶ女性、親密な愛情を共鳴させる夫婦……。手話言語を通じて日常的に熟達した彼らの身体表現は、「音楽とは？」という問いのさらに奥深く、人の内面から滲み出る内なる“何か”へと迫っていく。



新鋭監督・牧原依里 × 舞踏家・零境(DAKEI) 二人の聾アーティストの化学反応

映画監督である牧原依里は、これまで視覚や振動に工夫が施されたいわゆる“聴覚障害者向け”の音楽に心を動かされることはなかった。むしろ、無音で鑑賞するミュージカル映画のダンスや、オーケストラの指揮者・演奏者の身体の動きから視覚的に「音楽」を感じ、魅せられてきた。そんな折、手話表現そのものに「音楽」を見出す手話詩と出会う。



一方、舞踏家の零境(DAKEI)は、幼少期から補聴器をつけず、振動と視覚のみで育ってきた。「音楽なんてできっこない」と思い込んでいたが、舞踏との出会いでそれは覆される。踊りを続けるうち、いつしか「手話は言語の領域を超え、それ自体が音楽を奏でられるのではないか」という想いが芽生えていった。



そんな二人の共振から「聾者の音楽」をテーマにした映画の探求が始まった。人はどうしてか歌わずにはいられない。いま、聾のアイデンティティーから「音楽」と「生命」の新たな扉をひらく。



歌わずにはいられない。

私たちは、それを、何と名付ければ良いのだろう。